

「国語」の出題意図

中等教育段階までに身に付けてきた、国語を的確に理解し適切に表現する能力を評価する。また、思考力、想像力、言語感覚、言語文化に対する関心についても、評価の範囲とする。

「現代文」においては、人間の生き方、自然と人間のつながり、社会と人間のつながり、芸術・文学、文化・文明、言語などに関する文章を取り上げ、筆者の独自の考えを読み取り、科学的、論理的に思考し、表現する力を問う。

古典（「古文」「漢文」）においては、古典の本質的な価値や古典享受の現代的意義について考えるのに適した文章を取り上げ、①古人のものの見方・考え方などを読み取ること、②作品を支えている時代・社会・文化などと関連づけて考えること、③古典特有の構成・展開、文語のきまり、訓読のきまり、ならびに語句の意味・用法などを通して理解すること、以上の三点を評価の観点とする。

なお、解答の文章については、以下の点を評価する。

- ・ 問題文の内容を叙述に即して正確に読み取り、理解したことを、それぞれの設問の意図に沿って表現しているか。
- ・ 指示された字数で設問の意図に沿って文中の語句を使い、的確・簡潔にまとめているか。
- ・ 「主語―述語」の呼応した文になっているか。
- ・ 接続表現の使い方は適切か。
- ・ 誤字・脱字がないか、など。

一 現代文

問題文は、人間が過去を語る「自己語り」と「歴史的語り」の共通点と相違点を通して、語りが持つ意味や危うさ、歴史学者による新たな視点からの過去の構築との関係を論じている。

問一 文脈上の意味を理解した上で、その意味に合った適切な漢字を正確に書くことができるかどうかを問う。

問二 「自己語り」について、具体例に基づいた説明ができるかどうかを問う。

問三 「歴史的語りとは常に過去の再制作」であるという筆者の主張を踏まえて、「不思議な営み」であり「意義深い説明の様式」とする理由を本文に即してわかりやすく説明できるかどうかを問う。

問四 「自己語り」から説き起こし、「歴史的語り」へ展開させている本文の構造を理解し、両者の共通点について、本文に即してわかりやすく説明できるかどうかを問う。

問五 歴史学者の営みの特質について、本文に即してわかりやすく説明できるかどうかを問う。

二 古文

『今昔物語集』巻二十四「大隅国郡司読和歌語第五十五」を題材にして、古文の基本的な読解力を問う。

問一 傍線部に含まれる重要語句の意味や用法について正確に理解し、文脈にあわせて適切に現代語訳できるかどうかを問う。

問二 本文の文脈に即して人物関係を正確に把握した上で、適切に現代語訳できるかどうかを問う。

問三 連行されてきた郡の司を間近に見て以降の大隅守の心情の変化を文脈から読み取った上で、大隅守が郡の司に対して唐突に和歌の話を出してきた理由を適切に説明できるかどうかを問う。

問四 本文中で郡の司の頭が「皆白髪」と描写されていることから「雪」が何を比喻しているのかを読み取った上で、郡の司が現在置かれている状況を踏まえながら掛詞の部分の適切に現代語訳できるかどうかを問う。

三 漢文

『荀子』性悪篇中の文章を題材にして、漢文の基本的な知識及び読解力を問う。人の本性を悪であると主張し礼義の重要性を説く荀子の論理展開を、正確に読み取れるかどうかに着眼して出題した。

問一 漢文に用いられる基本的な語句について正しく理解できているかどうかを問う。

問二 漢文書き下しに必要な基本的事項および漢文の慣用表現について理解できているかどうかを問う。

問三 荀子が人の本性を悪であると主張する根拠を正確に読み取った上で、適切な表現を用いて現代語訳できるかどうかを問う。

問四 文脈に沿って指示語の内容を正確に把握し、適切な表現を用いて現代語訳できるかどうかを問う。

問五 本文全体の論理展開を踏まえ、荀子が「悖乱在己」と主張する意図を、適切な表現を用いて説明できるかどうかを問う。